

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

学校名【あま市立甚目寺西小学校】

1 実践テーマ	【I・III】
2 実施対象者	5年生 2学級 男子17名・女子33名 計50名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (総合学習)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>(1)福祉実践教室での車椅子体験を通して、車椅子を使って生活している人について、想像力をはたらかせながら理解することができる。</p> <p>(2)パラリンピックに関する講義を通して、障害者スポーツの存在について理解を深める。</p> <p>(3)福祉実践教室や出前講義を通して、パラリンピックに興味をもち、テーマについて調べ、まとめることができる。</p>
5 取組内容	<p>1 福祉実践教室</p> <p>(1)実施月日 11月21日(水) 3時限目</p> <p>(2)対 象 4年生、5年生、6年生</p> <p>(3)内 容</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>毎年、あま市の社会福祉協議会の協力を得て、福祉実践教室を開催している。講座内容は、4年生が「手話体験」、5年生は「車いす体験」、6年生は「老人疑似体験」と「点字体験」の4講座である。</p> <p>各体験を通して、障害や障害があることはどういうことかについて、体験を通して理解するのがねらいである。</p> <p>5年生の車いす体験では、車いすの操作の仕方や介助の仕方（段差の乗り越え方）などの実習を行った。その際、車いすに乗って自動販売機で商品を買う体験をし、選択ボタンやコイン投入口の高さや位置の大切さに気付くこともできた。</p> <p>また、講師が普段行っている車いすテニスを紹介していただいた。</p> </div> </div> <div style="margin-top: 20px;">  </div>

通常の車いすと競技用車いすの違いを確かめるだけでなく、サーブやラリーでボールを打ち合う様子を間近で見ることができた。

2 パラリンピック出前講義

「障がい者スポーツを知ろう！パラリンピック教育」

(1)実施月日 12月6日(木)5時限

(2)対象 5年生、6年生

(3)内容



オリンピックに比べ、パラリンピックに対する認識は高くないと考え、福祉実践教室を終えた5・6年生を対象に、出前講義を行った。

あま市に隣接する清須市にある愛知医療学院短期大学の教授である鳥居昭久先生を講師に招き、「パラリンピック(障がい者スポーツ)

とは何か」などの基本的なことを教えていただき、「心や体に障がいがあっても、一緒にスポーツを楽しむことができること」、「そのために私たちは何ができるのだろうか」について学んだり考えたりする機会となった。

3 総合学習「パラリンピックについて調べよう」(5年生)

(1)調べ学習1 12月(出前講義後)

パラリンピック出前講義をふまえて、興味があることや、もっと知りたいことについて、パソコンで調べさせた。

(2)テーマ及び班決め

(1)で調べた内容を、次の7つに分類し、詳しく調べる柱立てにした。

- ・パラリンピックの歴史
- ・パラリンピック競技の種類
- ・デフリンピック
- ・パラリンピック競技で使う道具
- ・パラリンピック選手
- ・シンボルマーク・マスコットキャラクター
- ・生活の中にある、体が不自由な人への配慮



(3)調べ学習2

3~4人の班を編成し、役割を分担し、協力して調べる。

(4)まとめ

調べたことを模造紙にまとめ、発表の準備をする。

(5)発表会 2月26日(火)

各学級で発表会を行う。



6 主な成果

福祉実践教室では、実習を通して、車いすに乗る側と介助する立場を体験することができた。また、自動販売機で商品を買うこと一つ取っても、障害のある人にとって不便なことはたくさんある事に気付くことができた。また、障害者スポーツの様子を間近で見ることができ、やってみたいという強い気持ちがあれば体が不自由でもできる事を

	<p>学ぶことができた。</p> <p>パラリンピック出前講義では、「世の中には様々な障害があることに気づいた」、「パラリンピック競技では障害に合わせて道具を使用するなど、ルールを変えることでスポーツをすることができる」、「オリンピックとパラリンピックにすべての人が出場できることが、差別がなくてよい」という感想が出された。また、「パラリンピックを考えた人はすばらしい」、「困っている人がいたら、優しく接してあげたい」、「前向きに明るく進んでいきたい」という感想もみられた。</p> <p>調べ学習1の際、「デフリンピック」に注目して、調べる児童がいた。福祉実践教室や出前講義を通して興味関心が高まったと思われる。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉実践教室や出前講義の講師等、障害者スポーツを行っている人やパラリンピック競技に携わっている人等、本物にふれさせるようにした。 ・体験的に学ばせた後に講演を聴くことにより、より想像力を働かせながら学習内容を理解することができる考えた。 ・児童が調べたいと興味をもっていることを分類し、調べ学習のテーマとした。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校で決まった年間カリキュラムに、どのようにオリパラ教育を組み込んで行くのか。 ・小学校の低・中・高学年に応じた活動をどのように考えていくのか。 ・オリンピック・パラリンピックに関わる人材を、どのように探せばよいのか。 ・講師謝金等、活動に必要な予算をどのように確保するのか。
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年交流活動で、上級生が下級生も楽しむことができる遊びを考える際に、パラリンピック競技の考え方を取り入れ、ルール等を作成させる。